

第 4 回委員会での意見・指摘事項への対応

項目	意見・指摘事項	対応
大方針	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かという言葉は非常に曖昧である。大方針の前の大前提として豊かという言葉を入れれば、全ての前提として成り立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大方針の前の大前提と整合を取る。
管理方針	<ul style="list-style-type: none"> ・再生、更新、管理の用語の取扱いについて、整理し、読み手が誤解の無いように整理すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よくなるプラン改定版の全体を通して精査し、語句の定義について、誤解の無いようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・スリム化→うっそうとしたに変換し、わかりやすい表現にすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が読んでわかりやすい資料の作成に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとっては市のみどりはどれも同じみどりである。管理者間で調整し、多摩市全体を綺麗にすることを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者間での調整が行えるような施策の取組等については、来年度以降の検討課題とする。
改善モデル区間	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル区間の選定基準を樹種メインではなく、暗い箇所や大径木化、樹勢の悪い箇所を優先にした結果、代表例がサクラやハクウンボク、ニセアカシアであったというロジックにすると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル区間の選定にあたっては、樹種の汎用性よりも、大径木化、樹勢の衰退箇所、枝葉の繁茂による暗化等の課題に着目して検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用性のモデルの選出を考えるなら、共通の課題があるところを選定し、さらに落葉樹と常緑樹で選定できればよい。課題解決モデル手法として、間伐、縮小、樹種更新等、類型化をしてモデルを選出する方が良い。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル区間の位置図に 6-11 号歩線が欠落している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル区間の位置図に図示する。
試行案	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの試行結果を写真等で示すことにより、街路樹の若木更新や灌木の撤去による良さをイメージしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よくなるプラン改定版への掲載も含めて、来年度の検討課題とする。
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル区間において、維持管理を実施した場合のコストの算定を実施すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な管理において代表的な改善策を実施した場合の管理コストの推移を例示する。
市民連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加にワークショップを取り込む等の、ボランティアに意欲のある市民が参加できる仕組みづくりの検討を行うのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の検討課題とする。
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・クロス集計は、各回答項目の実数に対するクロスさせる要因回答の実数を示すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート結果の内容の取扱いについては、来年度の検討課題とする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・現行のよくなるプランでは、根上がり対策が乏しい。改定では根上がり対策をもっと考えるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根上がり対策については、根系空間拡大による樹木の成長といたちごっこであることを前置きした上で対応方針を示し、改善モデル区間において改善策を例示する。